

務所 (京都府)

合わせた伸びやかな平面形状とした。また、既存地盤面の穏やかな高低差に沿って床レベルを設定し、敷地の地盤面と屋内床レベルの関係を重視した。庭と建物の構成については京都の伝統的な平面計画を参照し、7種類の性格の異なる外部空間(庭)に55種類の草木を植え、1年を通じて季節感溢れる計画を目指した。空間の中心に置く大きな家具は、家具作家とコラボレートして設計、製作した。



建設地：京都府京都市右京区/用途：一戸建て住宅/構造：木造/階数：地上2階/面積：敷地面積 1,437.19㎡ 建築面積 260.59㎡ 延面積 339.99㎡

◆このすまい | 内野設計 (徳島会)

大震災に備える仮設住宅の試行として建てられた施設。等高線に沿って細長い小建築を連ね、2間幅の建築の基礎はさらに半分の1間とした。基礎からの床の張り出しは方杖として、高床的な新しい町の景観創出を図っている。宿泊棟は仮設住宅となることを想定し、発災時のスムーズな材料供給のための事前の木材備蓄も考慮して、すべての棟を3寸5分角の柱材だけで建てられる構法とした。1期工事の方杖から、2期工事では重ね梁としてさらに施工性を高めた。



建設地：徳島県海部郡/用途：農林漁業体験施設/構造：木造/階数：地上1階/面積：敷地面積 不明 建築面積 271.58㎡ 延面積 203.67㎡

審 査 講 評



現地審査 (たまプラーザの家)

国土交通大臣賞 | 小規模建築部門

◆たまプラーザの家

今年度の国土交通大臣賞は、2世帯4世代が一敷地に生活する住宅、たまプラーザの家です。そこには、核家族とは別の、これからの家族の住まいのプロトタイプが提案されています。敷地は難段状に造成された、歩車分離の思想で区画割された余裕のある面積90坪の住宅地で、前面と歩行者の緑道の間には2mほどの落差があります。その土地の落差と建蔽率40%という法規制が生む60%の空地に着目し、生活が滲み出す街路や庭をつくっています。2世帯4世代が集まって一敷地に住むからこそ生まれる、家族の生活の分離と交流の豊かな枠組みが立体的な空間構成と行き届いた美しいディテールで設計されています。南北2本の道路をつなぐ中央の街路空間の構成がこの計画の鍵ですが、取りつくそれぞれの部屋の4つのブロックの大開口が街路に向かってズレて対角方向に配置され、光や緑、空気を室内に呼び込んでいます。多世代住居の世帯間の生き生きとした関係が実際に創り出されていることが現地で確認され、感心したところでした。一方で、すでに設計者に経験がある、外部の木製サッシュや軒庇の処理等、耐久の面から少々心配な点も審査委員から指摘されましたが、敷地全体を使って生活する日本住宅の家と庭の関係をこの90坪の敷地の中に現代的な解釈で取り戻し、そこに世代間が助け合う古くて新しい家族の新たな枠組みを盛り込み、創造的な住まいのプロトタイプを提出した設

日事連建築賞選考委員会委員長 法政大学名誉教授
富永讓・フォルムシステム設計研究所代表

富永 讓

計者の意欲と力量が評価され、国土交通大臣賞として選定されました。この多世代住宅のあり方は、現在の日本社会が直面している家族のあり方、在宅医療、保育といった問題にも、光を投げかけるものだと思います。

日事連会長賞 | 一般建築部門

◆熊本県立熊本かがやきの森支援学校

低層の住宅に囲まれた元自動車学校の跡地1.4haに建てられた学校です。年齢に幅がある重度重複障がいの子どもたちがそこで成長し、安全に学べる場所が心を込めて設計されています。周囲に車の寄りつき路を巡らせ、保護者の送迎車を多数並べ、救急搬送や、庭と一体になった場所で子どもに寄り添う看護の生活拠点を、勾配屋根の分節された平屋の集まりとして敷地いっぱい建てています。重い建築テーマでもあり、計画学として未開拓な部分の多いところですが、医療福祉施設の「ユニット・ケア」の考えを取り入れ、先生全員からの見守りの平面形式が、集団と個別教室の間に、そして引戸を使って教室空間同士で多様な利用を可能とするものとして、試みられています。このような計画上の考慮もさることながら、公共的な施設がこの土地にあることの佇まいの良さ、堅牢さ、内部の秩序感、細部の取り扱いの誠実さといった骨格の正しさも注目されました。集成材を用いず地場産の単材のみを用いて、ケレン味のない原型的な在来工法で、比例を考えて架構されており、困難な建築課題(ビルディングタスク)に正面から取り組んでいます。計画学的側面だけでなく、建築としての格調ある素朴な学習空間を現出させており、今後ともあり続けるだろうことが評価され日事連会長賞に選定されました。